

## はじめに

高度な専門職である教師は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める義務を負っており、学び続ける存在であることが社会から期待されています。

令和3年答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」では、「一人一人の子供を主語」とし、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題であり、教師の学びの姿は、子供たちの学びの相似形であり、主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルであると示されました。

そして、令和4年答申「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」では、教職生活を通じた新たな教師の学びの姿が次のように示されました。

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」

教職員の学びも、日頃から児童生徒に対して指導している学びと同じように、受け身の姿勢ではなく、主体的な姿勢が求められています。本県の「校長及び教員の資質の向上に関する指標」に示す資質能力を基に、自らを振り返りつつ、課題意識をもち、探究的に学び続けることが大切です。

岩手県教育委員会は、新たな教師の学びの姿の実現に向けて、令和6年度から、全国教員研修プラットフォーム：Plant（プラント）を導入しました。これにより、教師と学校管理職との対話に基づく研修が推進され、教師自らが主体的な学びをマネジメントできるようになることが期待されます。

このような私たちの学びのすべては、岩手県教育振興計画の学校教育における目指す姿である「本県の児童生徒が、自分らしくいきいきと学び、夢を育み、希望あるいわてを創造する「生きる力」を身に付けている」ことにつながります。私たちは、志を高くもち、たゆまぬ研究と修養に臨みたいものです。

この手引が、主体的・対話的で深い学びの実現と本県教職員の資質能力の向上の一助となりますことを心から願っております。

令和7年3月

岩手県立総合教育センター 所長